

令和2年度 一般社団法人 埼玉県校外教育協会委嘱

校外教育 研究の取組

研究主題

「体験活動を通して地域とともに育む心豊かな児童の育成」



加須市立加須南小学校



〒347-0033 加須市下高柳1991番地
電話 0480-63-2255
FAX 0480-63-2257
E-mail k-minami@city.kazo.lg.jp

1 学校の概要

加須市は、埼玉県の北東部に位置する。旧・武蔵国埼玉郡。東京都市圏（東京通勤圏）でありながら市内に工業団地など多数ある。埼玉県内でも有数の米どころで、中でも北川辺地域は県内一の米どころである。また小麦も県内トップクラスの作付け面積で加須うどんが有名であり、「加須の手打ちうどん」とも呼ばれる。

本校は、平成10年に創設された比較的に新しい学校である。加須市市街地の東武伊勢崎線以南の地域を学区としている。西から富士見町、南町、高畑地域で構成されている。在籍児童数は207名、9学級（特別支援学級2学級含む）、教職員23名（会計年度任用職員8名含む）である。

2 研究の概要

(1) 研究テーマ及びテーマ設定理由

テーマ：体験活動を通して地域とともに育む心豊かな児童の育成

設定理由：開校当時から地域の方々の見守りや学校への協力があり、「学校応援団」の6人のふれあい推進長が学校内に常駐し、校内の環境整備や児童の学習への支援等の中心を担っている。しかし、活動がマンネリ化してしまい、家庭の協力が乏しくなってきたりしている。そこで「地域とともに歩む」という目的を再認識し、地域行事や地域人財を生かして心豊かで地域に愛着を持った児童の育成をしたいと考えたものである。

(2) 研究計画

○ 研究のねらい

学校での学習や地域行事への参加を通して、学校応援団など地域の方と交流する機会を増やし、児童に感謝の心と地域への愛着心の向上を図る。

○ スケジュール

- | | |
|-----|--|
| 4月 | ・学校応援団年間指導計画の作成
→ 教育課程とリンクをさせ、共通目的をもった活動につなげる。
・ふれあい推進長紹介集会（全校児童）
・除草活動（地域敬老会参加） ※6月にも実施
・地域パトロール会議（地域） ※9月、2月にも実施 |
| 5月 | ・避難訓練 子ども110番の家確認（全校児童）
・田植え体験（5年生） ※10月に稲刈り体験 |
| 7月 | ・地域夏祭りへの参加（全校児童） |
| 9月 | ・地域敬老会への参加（郷土芸能クラブ）
※その他、郷土芸能クラブは地域行事や養護施設への参加
・地域への街探検（2年生）
・地域スーパーや消防署等への校外学習（3年生）
・不動岡高等学校との交流（5年生）中止 |
| 12月 | ・加須幼稚園・みなみ保育園との交流（1年生） |
| 2月 | ・開校記念集会（全校児童）
・研究成果の確認、取りまとめ <u>*本年度の活動は、延期や縮小中止がありました。</u> |
| 3月 | ・研究紀要の作成 |

○ 期待される成果

- ・異年齢との活動をとおして、良好な人間関係を築く力が付く。
- ・地域の方の活用や行事への参加をとおして地域愛が育ち、他者への思いやりの気持ちが育まれる。

3 実際の取組

(1) 安心・安全応援団の様子

「子どもの登下校や校外学習の声かけや見守り」をしてもらっている。毎朝、それぞれの応援団員が要所に立ち、子どもの登校を見守ってくれている。10人以上の応援団の方が学校まで送ってくれている。下校時には、低学年の下校時刻に合わせて、各地域まで送ってくれている。

また、校外学習時には、安全に目的地に行けるよう、教職員とともに子どもたちの引率を行ってくれている。



(2) 環境応援団の活動

校内整備（除草作業、樹木の剪定）や子どもたちの体験学習につながる活動をしてもらっている。



○4月と6月に地域の敬老会の方々の協力で、子どもたちと一緒に除草活動を行っている。子どもたちが気持ちよく活動できる校内環境が常に整っている。

○5年生の米づくり体験は、校門前の田んぼをお借りして、田植えと稲刈りの体験をします。水や稲の生長の管理もしてくれている。



○子どもたちが、学習で野菜を栽培する時は、農園の土作りや校舎前にグリーンカーテンのネット張り等などの事前準備、そして苗植え・収穫と子どもたちの支援をしてくれている。収穫の時の喜びも大きい。

(3) 学習支援応援団の活動

子どもたちの学習のサポートをもらっている。

○1年生の「むかしのあそび」では、応援団の方の経験を活かして、けん玉・こま・たこあげ・竹とんぼなど、さまざまな遊び方を教えてもらい、楽しく体験ができている。





○3年生が地元の小麦について調べる学習で、地域のうどん屋さんの協力で小麦粉を練る体験（左）。また、5年生が林間学校前にカレーづくりの事前体験をしている。（右）

○クラブ活動の時間に「郷土芸能クラブ」では、和太鼓や笛、どじょうすくいなど練習をしている。地域の方がそれぞれの特技を活かし教えてくれるので、子どもたちは加須市の伝統芸能「加須武州太鼓」をしっかり受け継いでいる。



○学校応援団の協力を得ながら学んだことを地域の皆様に披露したり、日々の感謝や地域への愛着を子どもたちや保護者たちが地域行事に参加したりすることでより深いつながりを結んでいっている。



○学習を活かした地域での活動の様子



[敬老会への参加]



[ひよっこおどり披露]



[夏祭り参加]

4 成果と課題

【成果】

- ・学校応援団の年間計画を随時見直していくことで、子どもたちからは「実際にやってみてよく分かった。」「できないところを助けてくれたのでできた。」等の感想を聞くことができるなど成果をあげることができた。
- ・地域人財を活用することで、子どもたちも保護者も地域の方々とのふれあいが図られ、地域とのつながりが深まった。
- ・新たな取組を行う中で、地域の方々の「さらに学校のために活動したい。」という意欲の向上が見られ、活動の拡大や新たな人財の発見につながった。

【課題】

- ・学校応援団の方々の高齢化とそれに伴う新たな人財のさらなる確保が課題である。家庭から学校応援団員を募集する等保護者にも呼びかけを行っていく。
- ・体験学習における学習目標の共有化を十分に図っていく必要がある。そのための時間の確保を教員と応援団の方との間で設定していかなければならない。

